国際研究論叢　25（３）：239～254，2012

研究ノート

海外ボランティア研修実施報告及び課題の考察

岩　崎　真　哉*

The OIU Volunteer Study Abroad Program and Issues Raised

Shin-ya Iwasaki*

Abstract

This research note describes how the Volunteer Study Abroad Program in Cambodia was carried out and the program generated. This article also considers the issues raised by the current program and explores how the program should be implemented in the future and what kinds of measures should be taken to improve it.

キーワード

海外研修、ボランティア、国際交流、カンボジア

Ⅰ．はじめに

2011年８月、大阪国際大学と常翔学園（大阪工業大学、摂南大学）の３大学合同による夏期カンボジアボランティアワークキャンプ研修に引率者として参加した。学生は、カンボジアのプノンペン、シェムリアップ、ブレイベン州を訪問し、現地の高校でボランティア授業をする12日間の日程である。引率者も学生ともに全ての行程を同行したわけであるが、その中で今後の研修のあり方にプラスになることを願い、研修の報告と今後の検討課題と考えられる点を以下に述べる[1)]。

Ⅱ．実施報告

１．研 修 先：カンボジア（プノンペン、シェムリアップ、ブレイベン州）
２．研修期間：平成23年８月19日（金）～８月30日（火）の12日間
３．参加学生：18名（大阪国際大学（計８名）：男子学生３名（２年生３名）、女子学生：５名（２年生２名、３年生３名）
（大阪工業大学（計４名）：男子学生４名（１年生１名、３年生２名、４年生１名））

＊　いわさき　しんや：大阪国際大学国際コミュニケーション学部講師〈2011.12.9受理〉

（摂南大学（計６名）：男子学生４名（２年生２名、３年生２名）、女子学生：２名（２年生１名、３年生１名））

引 率 者：３名（大阪国際大学（男性１名）、大阪工業大学（男性１名）、摂南大学（女性１名））

４．研修日程：

８月19日（金）

８：30　関西国際空港集合：

・国際線出発ロビー団体受付前で、各自荷物の確認を行う。
（学生１名が５分、１名が20分ほど集合時刻に遅刻する。）

10：30　ベトナム航空 VN941便にてホーチミンへ。13：50着。

15：00　VN840便でホーチミンからプノンペンへ。15：40着。

・プノンペン空港に到着すると通訳ガイドのＰ氏が出迎えてくれる。Ｐ氏は昨年度も本学の通訳ガイドをしてくれたという。

・バスに乗り、一同ダイアモンドホテルへ移動する。APEX のＯ氏が出迎えてくれる。

８月20日（土）

８：30　ホテルを出発。

・終日、プノンペン市内のフィールドトリップを行う。見学先は、王宮、キリングフィールド、トゥールスレン刑務所博物館、ロシアンマーケット。

・トゥールスレン刑務所博物館では痛ましい過去を目の当たりにし、キリングフィールドでは、現在でも足元に残っている衣服の残骸に、学生たちは皆口数が少なくなる。

・ナイトマーケット見学後、夕食へ。

８月21日（日）

10：00　ホテルをチェックアウト。

・今日からガイドにＫ氏が加わる。

・午前、市場を見学。学生１名が物乞いにお金を与えたところ、大勢の物乞いが押し寄せた。また、女子学生１名がかばんをひったくりに取られそうになる。

・午後、ネッルーンへ移動。バスに乗ったままフェリーに乗る。
（窓の外すぐそばにいる物売りの少年少女に、学生は驚きの声を上げる。）

・Chea Sovanpich ホテルに到着。ミーティング後、ホテルに一番近い食堂で夕食をとる。

８月22日（月）

６：30　ホテルに一番近い食堂で朝食。

７：20　ホテルからプロモルプルム高校に向かう（学生１名が集合時刻に遅刻）。

８：00過ぎ　高校に到着。（朝は、８月26日（金）まで同じ予定。）

・引率者が校長・副校長と打ち合わせをした後、校長が生徒を校庭に呼び出してくれる（現在は夏休みで、生徒はプライベート・レッスンを受けているとのこと）。

・各大学から持参した文房具・筆記用具等を学生の代表者が生徒に贈呈し、学生代表が挨拶の言葉を述べ、式は終了。

・最初の授業は、キックベース。生徒は、授業があることや、女子生徒はあまり運動したがらないようで遠巻きに見ている。結果的にはキックベースに適当な人数が残る。日蔭では女子生徒たちが談笑しながらこちらを窺い、英語を話したい生徒が話しかけてくる。キックベースは結構もり上がる。
・２つ目の授業は書道の授業。教室満杯の状態で、生徒たちは熱心に授業を受けてくれる。
・昼食は高校のすぐ隣にある食堂でとる。
・昼休みは11：00～14：00ということもあり、学生は各々自由に昼休みを過ごす（ある者はバスの中で休み、ある者は校庭で小さな子供たちと遊ぶ）。
・引率２名は、カンボジア日本友好学園校長のご自宅で話を聞く。その後、友好学園を見学する。

14：00過ぎ　プロモルプルム高校生徒の代表によるクメール語のレッスンを受ける。
・英語による授業で学生たちは始め戸惑う。学生たちの隣には、高校の生徒一人がついて発音などを教えてくれる。レッスンは15：00ぐらいに終了。（午後は、８月26日（金）までクメール語のレッスンを受ける。）

17：00　夜のミーティング

８月23日（火）
・朝、学生１人が不調を訴える（授業には参加する）。
・本日の授業１つ目は、ドッジボール。日本対カンボジアで行い、大いに盛り上がる（向こうの女子高校生は参加せず）。
・２つ目の授業は、日本語の言葉と単語の説明。生徒たちは大きな声で繰り返し発音練習をしてくれる。その後、その練習した日本語を使って、ケードロ。

８月24日（水）
・新たに学生１人が不調を訴え、ホテルで１日休むことにする。
・KEAF Japan の担当者と２人のボランティア日本語教師とともに、ミニ運動会をする予定であったが、お互いに少し思い違いがあり、運動系の活動を少しするだけになる（馬跳びリレーとドッジボール）。
・校舎内での授業は、福笑い。
・午後のクメール語レッスンのあと、KEAF Japan の２人も加わり、農村訪問を行う（２つのグループに分かれる）。高床の家に実際に入り、皆歓声を上げる。
・ホテルに戻り、明日のミーティングを行う。

８月25日（木）
・学生１人の熱が下がらず、引率１人とガイド１人とともに、プノンペンの International SOS clinic に行くことになる。本体は他の引率１人が担当し、これまで通り授業を行う。
・本日の授業１つ目は、しっぽ取り。２つ目の授業は、わりばし鉄砲。同時進行で、折り紙の授業を行う。３つ目の授業は、大縄跳び。日本対カンボジアで、こちらも大いに盛り上がる。この後、カンボジアのゲームもしようということになり、２種類ぐら

い行う。
・昼食後、クメール語レッスンを受け、ホテルに戻る。
・学生１人はプノンペンの病院にそのままとどまる。
８月26日（金）
・授業最終日。最終日にして雨。授業は、鬼ごっこ・リレーから大阪にあるものの説明に変更。
・２つ目の授業は、カルタとコマの説明と実践。小さい子供も混じって盛り上がる。
・３つ目の授業は、竹トンボの部分を変更し、折り紙。シャボン玉には歓声が上がる。
・クメール語のレッスンの後、カンボジア人生徒の要望により、再度カンボジアのゲームを１時間ほどすることになる。
８月27日（土）
８：30過ぎ　高校到着。
９：00過ぎ　お別れ会を行う。
・今まで授業で使ってきたボールや折り紙、かるた、こま、お手玉等を高校にプレゼントする。学生代表が挨拶し､｢上を向いて歩こう｣の歌を合唱し、お別れ会を終了する。その後、生徒が似顔絵をくれたり、プレゼントをくれたり、写真をとったりと別れを惜しんでいる。一部の者、号泣。余裕を持って10:30に学校を出ることにしていたが、少しオーバーする。
11：00過ぎ　ホテルすぐ近くのいつもの食堂で昼食をとる。
・昼食後、歩いてフェリー乗り場へ行く。
14：00ごろ　プノンペン空港到着。
・空港でガイドのＰ氏、Ｋ氏、ドライバーのＲ氏に皆で書いたメッセージカードを渡し、写真を撮りながら別れを惜しむ。
16：00　VN3989便にてプノンペンを出発し、シェムリアップに向かう。
16：45　シェムリアップ到着。
・ガイドのＳ氏が出迎えてくれる。その後 Salina ホテルに向かう。
18：30　夕食時に、サプライズ誕生日パーティーを行う（寄せ書き入りの“I LOVE CAMBODIA”Ｔシャツをプレゼントする）。
20：10　ネッルーン滞在時から少し体調が良くなかった学生１人を連れて引率者１人が Royal Angkor International Hospital に向かう。
20：30　病院に到着。
・APEX のＹ氏が待っていてくれる。問診、血圧、体温（37度０分）を測り、触診。下痢も収まってきているということで快方に向かっているとのこと。薬をたくさんもらう。
22：00　ホテル到着。
８月28日（日）
９：00　ホテル出発。
・最近の雨により、道の状態が悪いということで、バン３台に分乗し、ホテルを出発。

言われていたように、道はでこぼこで、池のように水が溜まっているところがある。
11：30　伝統の森（IKTT：クメール伝統織物研究所）に到着。
・新しい棟（シャワー付き）が出来たということで、女性陣は全員その棟に入る。
・研究所所長出演のビデオを見て、昼食をいただく。
13：00　染色体験。
・伝統の森に滞在中の日本人女性が補助をしてくれる。
・伝統の森をいろいろ見学後、夕食まで休憩。寝過す者も。
18：00　夕食。
・夕食後、希望者は所長と懇談する。皆所長の話に感心する。
21：00　懇談後、22：00までに電気が消えてしまうので、皆急ぐ。
8月29日（月）
7：00　朝食。
・ガイドのＳ氏が来るのを待って桑の木植樹に向かう。５年後には実がなるという。
9：00　伝統の森を出発。
・途中、雨がひどく降ってきたので、アンコール・トム遺跡、タ・プローム、アンコール・ワット遺跡見学の順番を入れ替える。
13：00　アンコール・ワット遺跡見学。
・空港に行く前に、アンコールワット・クッキー店に寄る。その後、空港近くのレストランで夕食をとる。
21：35　VN3822便にてシェムリアップ出発。
22：35　ホーチミン到着。
8月30日（火）
00：10　VN940便にてホーチミン出発。
7：20　関西国際空港到着。
・国際交流課のＴ氏が出迎えてくれる。引率３人の簡単な挨拶、Ｔ氏からの健康への注意の後、一同解散。

Ⅲ．研修前のアンケート結果

Ｅメールで尋ねた「研修参加理由」も加えて、下記１～３のアンケートを下記に記す。

【質問：あなたがカンボジア研修に参加した理由は何ですか。】

・旅行でカンボジアに行く機会があっても現地の人と触れ合ったりする機会は今回しかないやろしせっかく大学入ったし大学生の間しか出来んようなことやらなもったいないと思ったから。
・発展途上国の環境が見たくて参加した。
・中学生の時に総合の授業でカンボジアのビデオを見たのがきっかけで、ずっとカンボジアへ行ってみたいと思っていたから。
・カンボジアでのボランティアで自分は何ができるのか？　研修で何を得て、どのように活かせれるのか？　それを確かめる、知るための自分への課題として参加した。

・就活が始まり忙しくなる三回生の最後の自由な夏休みに何か自分にプラスになることを経験したいと思い、このプログラムの募集のチラシが掲示されていたのを見て参加しようと思った。
・建築とはあらゆる危機から人の命を守ることであり、先の大戦からもわかるように他国を理解していかなければならない。私は自然を最大限使う建築をしようとおもっており、この研修がそれに参考になればとおもう。
・昔から「世界ウルルン滞在記」のような世界紀行ドキュメンタリー番組が好きで、自分もいつか異国の地で人と触れ合って役立つような事をしたい！と思っていたから。
・今まで毎日が同じような大学生活を送ってきたので、何か刺激を受けたかったから。
・高校時代の恩師が青年海外協力隊で２年間発展途上の国でバレーの指導をしておられた話を聞いて先生が別の世界の人のように感じられた。それ以来、私も今しかできない挑戦をして色んな世界を見てみたい！と思うようになった。カンボジアの歴史や生活は辛い部分もあると思うがそれ以上にたくさんの笑顔があるとカンボジアに行かれた方から聞いた。その笑顔にたくさん出会い、その笑顔の理由に私がなれればと思い、参加することにした。
・色んな世界を見てみたいということと、カンボジアは日本より貧しいみたいで、少しでも力になれるようなことがしたいと思ったから。貧しいと聞いていても実際自分の身体で触れてみないとわからないことが沢山あるし、現地に行って自分の身体で触れ、目で見て、経験したいと思った。授業で習ったアンコールワットも、実際自分の足を運んで、感じ、学びたいと思っている。
・知らない世界に飛び込んでみたかったから。大学から一人暮らしを始めたが、自分の知ってる地元の世界と大阪とは、同じ日本でも、また違い、その中での人との出会いはかけがえのないものと感じている。
・日本だけじゃなく色々な国の色々な風習やその国の人たちと関わってみたいと高校の修学旅行のマレーシアに行った時思った。そして海外研修のなかでもカンボジアが一番刺激になるとおもった。
・ボランティアに興味があってカンボジアはあまり裕福ではないと思っていたのでそういった国に実際行ってみてどんな暮らしをしているのかなど自分の目で見てみたいと思ったから。

【カンボジア研修直前アンケート】（16名回答、複数回答あり。）[2)]

１．研修直前に当たり、不安に思っていることは何ですか。
・食事が合うかどうか。
・忘れ物がないか。
・物をなくしそう。
・体調を崩さないか（３）。
・授業をしっかりできるか。
・病気にならないか不安（３）。

・蚊による感染症。
・下痢。
・うまく授業ができるか（3）。
・授業が段取り通りにいくか不安。
・一緒に行く子たちと仲良くできるか。
・カンボジアの子供たちとうまくコミュニケーションをとれるか。
・うまく子供たちと仲良くなれるかどうか。
・行く皆ととても仲良くなれるかどうか。
・健康でいられるか。
・貴重品の管理。
・授業を行う時に、通訳人を通してきちんと会話できるのか。
・海外ということで常に不安。
・全員無事に研修を終えられるか。

2．研修前にどのような準備を行いましたか。
・どうやって授業するかをイメトレした。
・授業で使うものをいろいろな店で探した。
・授業についていろいろ調べ考えた。
・ずっと自分のする授業のイメージをしていた。
・授業の準備（3）
・道具集め
・プリント製作。
・カンボジアの歴史について少し調べた。
・カンボジアの歴史について考えていた。
・カンボジアについての本（60章）を読んだり、多くのテレビ放送、映画を見た。
・カンボジアのことを勉強した。
・虫刺され対策用品を買った。
・皆とコミュニケーション。
・授業で教えるものの練習。
・授業についてインターネットで調べた。
・カンボジアの指差し会話の本を買った（2）。
・ウェブサイトでカンボジアについて調べた。
・参加者の自己紹介（メーリス）を一枚にまとめた。
・現地での簡単なマナー・あいさつについて調べた。
・子供にどのように教えたらいいか、友人に相談。
・早寝・早起き。
・三食食べる。

3．現在の意気込み、決意、あるいは抱負を書いてください。
・子供たちに喜んでもらえるようにしたい。
・健康な状態で帰ってくること。
・向こうへ行ったら色んなことを学んで感じて帰りたい（2）。
・何か感じて自分にプラスになるようにしたい。
・せっかくのいい機会なので、いろんなことにどんどん挑戦していきたい。
・笑顔いっぱいに現地の子たちと過ごせるようにしたい。
・カンボジアに行くことは自分の夢だったので、叶うことが本当にうれしい。
・夢が叶うなんてなかなかないと思うので、しっかり活かしていきたい。
・笑顔いっぱいで、ひとまわりもふたまわりも大きくなる。
・絶対に体調万全に、常に絶好調で約２週間、楽しんで学んでいきます。
・あらゆることを感じたい。
・生徒と仲良くなりたい（2）。
・カンボジアの文化も学んでいきたい。
・おもいっきり楽しむ。
・皆で仲良く、楽しく過ごす。
・寝て休む。
・一番は何事もなく無事に終えればいいと思っている。
・一生の思い出に残るような旅にしたい。
・授業がもし失敗しても、あわてずにきちんとしてきたい。
・現地高校生にドッチボール、絶対勝ちたいと思う。
・全員と仲良くなる。
・この研修で見たこと、感じたことをうまく言葉にできるようにしたい。
・皆をサポートできるようにしたい。
・迷惑をかけないようにしたい。
・無理はしない。
・何もなくさない。

Ⅳ．研修後のアンケート結果（17名回答）

1．研修を終えて、当初の抱負や決意に対して、どのように感じますか。
・当初は自分のボランティア授業を成功させることや、カンボジアが日本とどのように違うかを学ぶことぐらいしか考えてなかったが、実際に訪れ、カンボジアという国をこの目で見たら、自分のこれからの生き方を考え改めるきっかけにもなったと思う。支援してくださった家族、引率者の皆さん、仲間たちには本当に感謝している。
・笑顔いっぱいに楽しむことができた。（2）
（キラキラした笑顔を見て、私も一緒に笑うことができ、また21人といる中でもよく笑えました。この12日間、すごくよく笑いました。）
・色々な人と話せて、自分なりに何かつかめたと思う。

・一人部屋が全体的に多かったけど、みんな話しかけてくれてとても楽しむことができた。
・ストリートチルドレンとも全力で遊ぶことができてとても楽しかった。（2）
・高校でも最高だった。いい思い出ができた。
・高校生と楽しいゲームができて良かった。
・自分が、日本の文化を伝えることが十分に出来ていないと思う。
・病気にならず、けがなく帰ってこられてよかった。（2）
・決意は達成できた。
・授業は自分の思い通りに出来た。
・全体としては自分が疑問に思っていることや聞きたいことを積極的に聞け、とても満足している。
・自分なりに頑張ったと思う。
・始めての国でいろんな経験ができた気がする。
・完璧とは言えないが、ある程度こなせたのではないかと思う。ただ、満足しきれていないところもあり、今後にいかせそうである。
・始めは向こうに行くまでに、こわい危ないというような先入観が少しはあったけど、実際カンボジアに行ってみると、そんな不安はすぐになくなって、自分が思っていた以上にカンボジアを楽しめた。

2．担当の授業の感想を書いてください。
・本番は、ほとんどテンションで乗り切ったもので、準備不足なところもあったが、終わり良ければ全てよしということで無事に終われたことにホッとしている。
・授業において、「あいうえお」表しか準備していなくて、導入とか段取りをきちんと考えられていませんでした。そのために、みんなに動いてほしいこともうまく伝えられなかったりしたので、もっと事前から準備をしておくべきだったと反省しました。
・もう少し難しいゲームにしてもよかったと思う。
・とても大きくグダリました。緊張がとれなくて、計画してた説明や例や作り方、構成が全部飛びました。紙に書いておけばよかったと思った。でも最後にはもりあがって、生徒たちもハシャイでくれてとても楽しかった。
・メインのリレーをできなかったのは悔しいが、大阪を少しでも伝えることができて良かった。
・思った以上の結果で、始まりの不安が嘘のようだった。
・日本語をリピートする時、ついてきてくれて、凄く楽しかった。
・周りに助けられて、うまくいったと思う。
・準備が完成したことに満足して、段取りとか行き当たりばったりだったが、なんだかんだ楽しんでもらえたと思う。
・雨のために予定ではない日だったが、毎日準備は持って行っていたので、良かった。
・こっちが楽しくすることが、みんな楽しく授業ができると思った。

・子供たちはみな積極的に取り組んでくれたし、ゆるく授業ができてよかった。
・サポートでみんながついてくれたのですごく助かった。
・活躍できなかったが、成功してよかった。
・準備不足なところが多かった。ルールなど人の数やグラウンドの状況が予想以上だったけど、その場でうまくこなすことができた。事前準備をちゃんとしていたおかげだった。反省点は色々あったけど、生徒達が全力で楽しんでくれたことがうれしかった。
・ゲームのルールを理解することは簡単であったようで、カンボジアの子供達の理解は早く、自分なりに上手く出来たと思う。
・頑張ったがいまひとつだと思った。
・緊張して自分ではうまくできたか不安だったけど、意外とうまくできたかなと思う。
・一番最初の授業ということで、不安ばかりであったが、終えてみて形になったことはよかったと思う。しかし、まだまだ用意はできたと思う。
・授業の大縄跳びで、当初はすごく不安だったが、カンボジアの生徒たちは大縄をもともと知っていたみたいだったので、スムーズにできた。
・体調不良のせいで授業をすることができなかったのが本当に心残り。でも、する予定だった授業をみんなが代わりにしてくれて本当にうれしかった。

3．楽しかったことを書いてください。
・全てのイベント（全部楽しかった）。（5）
・染め布体験が楽しかった。（2）
・カンボジアでたくさんの人に出会えたが、やっぱり一番は日本からずっと一緒に頑張ってきたみんなと、過酷な毎日の中で、バスやホテルで楽しい思い出ができたこと（サプライズ・バースデーパーティー）。（2）
（みんなと絡めたこと。）
・体調崩したのもいい思い出。
・高校生に教えた授業。
・仲間の行動。
・高校で、外で体を動かしたこと（21人という時が一番濃かった）。
・ネッルーン村のホテルで、夜、語り合った時間は貴重だった。
・プロモルプルム高校の何人かと、日本や大学についての疑問などを話し合った。
・未知の食べ物を食べられたこと。
・高校の英語の授業を生徒達と一緒に受けることができたこと、愛などいろんなことを話すことができたこと。
・毎日の授業、異国での生活。
・高校の生徒達やちっちゃい子らと遊んだのが一番楽しかった。（5）
・アンコールワットを見れたこと。
・ストリートチルドレンと遊んだこと。
・衝撃的な事も新鮮に思えた。

4．難しかったこと、戸惑ったこと、困ったこと等を書いてください。

・一番は物乞いとの接し方で、払えないのでひたすら謝りながら通り過ぎることもあれば、完全に無視することもあった。もし今後同じような国に行くことがあれば、どのような対応をすればいいか、しっかり勉強したい。
・英語が全然わからなくて、あんまりうまく話せなくてとても困った。（5）
（英語を単語ばっかり言ったので、とても通じなかったので、とても苦しかった。）
（カンボジアの子供たちは多くが英語を話せているのに、日本人は中・高校と6年間も勉強しているのにできない子が多いのは、カンボジアの子達に比べると日本の子達は勉強に積極的ではないというか…。）
・ストリートチルドレンに物乞いされた時に、どうしたらいいかわからなくて戸惑った。
・授業とクメール語の発音がとても難しかった。
・クメール語がわからなくて話ができなかったことがいっぱいあった。
・困ったことは、熱が出たこと。
・トイレの回数。（2）
・ホテルが汚い。虫がいる（でも慣れた。少し強くたくましくなれた）。
・授業を一緒にやる人と、感情の出し合いができておらず、ばらばらになってしまった。
・ホテルのお湯が出ないこと（慣れた）。
・しょうがみたいな変わった味の料理が全く食べられなかった。
・ネッルーンのホテルで色々壊れたこと。
・基本的になかった。カンボジアの全てを受け入れてやる、という気持ちで行った。
・下痢に少しなったこと。
・市場の匂いがすごかったこと。
・他のメンバーと高校での授業に対する（モチベーションの）温度差があり、戸惑った。（2）
・授業を自分一人ですることが不安だった。

5．研修前と後では考え方が変わりましたか。Yesならどのように変わったかも書いてください。

・カンボジアの人たちは子供から大人までみんなたくましい人たちばかりで、自分一人で何でもできるような人ばかりだった。だから、自分も彼らを見習って、強い人間になりたいと思った。
・貧しいとか貧しくないとか、本当に関係ないと思ったし、それ以上に人の温かさが身にしみたので、自分もカンボジアの人たちみたいに心の温かい人になりたいと思った。
・カンボジアに対しての考え方はめちゃくちゃ変わった。「貧しくてかわいそう」じゃなくて、「みんな笑顔で幸せそう」な国だと思った。
・勉強熱心な子ばかりだったので、これからもっと勉強がんばろうと思った。
・人（内面）を見るようになったと思う。
・クメール伝統織物研究所所長さんに言われた、「失敗は成功のもと」ということばがと

ても胸に響いた。所長さんも始めは、地団太を踏んだんだと思うと自分の思いがとてもちっぽけに見えてきた。これから頑張れそう。
（所長さんの話を聞いて、「マイナスなことをポジティブに考える」ということにおいて、すごく納得した。）
・研修前は授業はもっと簡単にいくとおもったけど、もう少し準備していけばいい授業になったと思う。
・当たり前の事を小さい時からしっかりしていると思った。
・たくましくなった。
・言葉で表すのが難しいが、大切なものを学んだ。
・日本は恵まれているけど、心というか中身が貧しい人が多いと感じた。
・他の研修生との意思疎通がうまくできなかった。そもそも確固とした意志をもって取り組むべきであった。
・貧しい国はみんな苦しんでいると思ったけど、そうではなかった。みんな楽しそうに笑う人たちだった。でもその一方で、本当に物乞いはいて、でも、それを職としてやっている人もいて、思っていたよりも複雑だった。
・高校の生徒たちの真剣に勉強する姿を見て、自分も頑張らないと、努力しないとと思った。（２）
（勉強できるありがたさを感じるから勉強を熱心にしたい。）
・英語はいらないと思っていたが、カンボジアの人々は英語が話せていたので、絶対必要だと思った。
・日本でも一生懸命生きてやろうと思った。
・もっといろんな世界を見たい。
・無理とか不可能とか言わない。
・日本人は甘えすぎだと思った。
・カンボジアの人は足が無くても自分でお金を稼いでいて本当に凄いと思う。
・カンボジアの人は毎日一所懸命に生きて、毎日を楽しく笑顔で過ごしていて自分も尊敬しなければいけないなと思う。
・アジア諸国は体を壊しやすいと聞いていたが、特に何もなく無事に過ごせたので、もっとアジアへ行きたいと思った。
・ボランティアとは一体何か考えた。

６．日本の文化との違いについて感じたことを書いてください。
・日本は自分の親が生まれる前には戦争というものがなくなったにも関わらず、カンボジアでは、自分が３、４才ぐらいまで、それがあったことを考えると、カンボジアが受けた戦争の傷を回復させるにはまだ時間がかかることだと思う。だから、日本のような戦争の痛みを知っている国がもっと支えていけばいいと思った。
・ルールをあんまり守らない。特に交通ルール。バイクの多人数乗りなど。（３）
・ゴミのポイ捨てが当たり前。どこにでもゴミを捨てる。これにはビックリした。多分、

そうじの習慣があんまりないのかな、と思った。
（町には「ゴミ箱」というものがなかった。）（4）
・ハエが多い。
・トイレやトイレの紙が流せないこと、シャワーの性能に驚いた。水浴びとか･･･。
・戦争が終わったとはいえ、カンボジアにはまだまだ貧困がある。
・日本ではぜいたくし過ぎだと感じた。
・日本人はダメだなと。もっと笑わないと、心から。素直にならないと。自分の気持ちに正直に、前を向かないと。カンボジアの人々（特に子供）は本当にたくましい心を持っている。
・田んぼを手伝いながら勉強していると聞いて頭が下がった。
・伝統の森では、近くにあるものを使って生活に必要なものを作り、それが次の世代に伝わっていくと聞いて、何かわからないけど、「確かなもの」を感じた。時間と手間をかけている。
・はじめての物乞い、ストリートチルドレン。（2）
・市場で豚の顔まるごと売っていること。
・食文化、味わったことがない料理がほとんどだったので、始めは少しつらかった（慣れた）。
・人が優しかった。
・日本のインフラのすごさがわかった。ありがたさもわかった。
・全体的にみんなポジティブ。
・外でよく遊んでいた。
・日本人とカンボジア人の生きることへの熱意の違いを感じた。
・日本とは違って、お店の人も空港の人もホテルの人もみんながフレンドリー。

7．事前にこのようなことを準備しておけばよかったということがあれば書いてください。
・授業のことで、事前に授業の進め方や時間配分をもっとたくさんパートナーと話し合えばよかったと思っている。
・授業の準備をもっとしっかりとしておくべきだった（2）。
・英語！！　もっと現地の人と話せるように勉強しておくべきだった。そうすれば、研修ももっと楽しくて充実したものになったかなと思う。（7）
（カンボジアはクメール語と思っていたので、全く英語の勉強をせずに研修に参加していた。高校に行った時、カンボジアの生徒が英語でたくさん話しかけてくれたのに、理解できない時もあり、悔しかった。）
・もっとみんなと絡む機会を作ればよかった。
・三味線を持っていかなかったことが一番大きい。
・蚊取り線香はもう少し必要だったかもしれない。
・スーツケースをもう少し大きいものにしたら良かったかもしれない。

・カンボジアについての疑問をノートに書いておく。（高校の子に聞きたいこと）
・英語で聞き取れなかった話をノートに書いてもらうという考え。
・ハンガー、洗濯の紐、色んな種類の薬。
・カンボジアでしたいことなど、幅広い分野で目標を日本で立てておくべきだった。
・半そでＴシャツをもっと持っていけばよかった。
・休み時間に何かできるように準備しておけばよかった。

Ⅴ．アンケート結果の考察

（ⅰ）本海外研修の目的について：まず、本海外研修がスタディアブロードの単位となることから、その授業の概要・目的を見てみよう。

【概要・目的】日本とは違う海外での生活体験・学習体験を通じて、語学能力の向上（英語研修・中国語研修）、日本語教育や現地教育システムの研究（日本語教員アシスタント研修）、貧困問題・地域格差や平和・人権教育（ボランティアワークキャンプ研修）についての理解、そして日本社会・文化を捉えなおすこと（全研修）などを大きな主目的とする。

特に、本研修はボランティアワークキャンプ研修であるから、概要･目的の後半にある、「貧困問題･地域格差や平和･人権教育」について理解し､「日本社会･文化を捉えなおすこと」が学生に求められる。アンケート結果を見ると、カンボジアのいわゆる「貧しさ」と戦争の「いたましさ」に関わる直接的な記述が16件あることから、貧困問題や平和に関してはある程度の考察を行っていると考えられる[3)]。また、「日本社会」と「日本の文化」をカンボジアの社会・文化と何かしら比較しているコメントが35件あることから、学生は自国の社会・文化をもう一度振り返り、捉え直していると言える。以上のことから、シラバス上の目的は達成していると考えられる。

また、海外研修のオリエンテーションで話されるように、もう一つ大きな目的として、「ボランティア授業」を成功させることがある。授業に関してアンケート結果を見てみると、反省点はあるものの、「うまくできた」、「成功した」という意見が12件ある。学生はそれぞれ１回しか授業ができないので、うまくいかなかったところがあった場合にそれを次回にいかせないのは残念だ、という意見も聞かれた。引率としては、学生は皆それぞれの状況の中で努力し、精一杯授業を行っていたと思う。ただ、アンケートの学生のコメントにもあるように、学生同士の中で、授業に対する温度差があったのも確かである。それに対しては、学生同士が話し合いの場を設け、それぞれの意見を出し合い、議論し解決に向けて努力してほしかった。

（ⅱ）語学について：本海外研修は英語研修ではないので、語学力の向上を目的とはしていないが、カンボジア人の高校生が自分たちよりも一様に英語が話せることに驚き、自分たちの英語力の不足に気付いたようである。「英語がわからなくて困った」や「英語

を勉強しておけばよかった」という意見が、合わせて15件見られる、また、「カンボジア人生徒は自分たちよりも熱心に勉強している」というような意見が５件見られる。これを機会に、学生には語学力の向上に努めてもらいたいものである。

（ⅲ）異文化について：学生は日本の文化・生活と異なった生活様式を十分に体験できたようである。特に、トイレの問題やゴミの問題では、日本での生活のありがたさに改めて気付いたようである。また、それぞれの人種・文化の違いに気付いた一方で、同じ人間として隔たりなく接することができることを理解したと思う。

Ⅵ. 課題の考察

本章では、研修において改善の余地があると思われる事柄について考察する。

（ⅰ）市場見学の多さ

市場見学について、当初の予定では、セントラルマーケット、ホテル近くのマーケットとロシアンマーケットの３つを見学することが計画されていた。時間が余ったということで、ナイトマーケットも見学することになった。確かに、カンボジアの物品を観察したり、日本との物価の違いを実感することは重要であるし、それぞれの市場で売られているもの、売っている人は違い、それを観察することも重要である。しかし、市場４つは多いと考えられる。市場見学を減らして、移動可能な距離でプノンペン市内の別の施設を見学することは可能なのではないだろうか。例えば、メコン大学日本語ビジネス学科やプノンペン大学日本語学科を見学することは、プノンペンにいる間は距離的には難しくないと思われる。もちろん、相手側の大学が見学を許可してくれるかはわからないが、もし見学が実現すれば得るものは多いであろう[4)]。

（ⅱ）研修の準備

研修前のアンケート結果からもわかるように、「海外研修」という意識が低い学生が見られた（もちろん、研修を「楽しむ」ことは大事であるが、それだけが本研修に臨んだ目的であるような意見も見られた）。研修の準備説明会が数回開催されたが、遅刻をしたり欠席する学生が見受けられた。遅刻や欠席をしないことは、海外研修に限らず、普段の学校生活でも当てはまることであるが、特に海外へ集団で渡航する際には、時間を守ることが極めて重要であるので、決められたミーティングには時間厳守で参加することをもっと強く言うべきであろう。

（ⅲ）授業の準備

研修後アンケートの学生のコメントにあったが、学生間で授業に対する熱意の差が見られた。ある者は非常に熱心に授業の準備をし、またある者はそれほど授業のことを考えていないようだった。これには、事前に授業準備の進展具合を報告させ、ある程度の授業の進め方の概要を発表させるのがいいであろう。また、事前説明会で、屋外で行う授業の場

合は、「雨が降ったときのことも考えて準備するように」と伝えていたにもかかわらず、一部不十分であったところが見られた。余分に授業を準備していたら、同時並行で複数回、授業を行うことも可能であったので、その点は改善されるべきところである。

（iv）研修成果

日本帰国後、学生に対して、研修成果の報告をもっと充実させる必要があると考えられる。現状では、研修で何を得たか、またそれを帰国後の大学生活・今後の人生でどのように活かすかを学生に考えさせるには不十分であると思われる。研修報告のさらなる充実が求められるであろう。

Ⅶ. おわりに

本稿では、夏期カンボジアボランティアワークキャンプ研修の報告と研修で見られた課題を考察してきた。上記で述べたように、本研修の目的は、一応は達成されていると考えられる。しかし、前章で挙げた改善されるべき点がいくつかあるのも確かである。特に、事前準備段階で、本ボランティアワークキャンプが単なる「観光」ではなく、「研修」であることを今一度十分に認識させ、事後指導では、この研修が帰国後の大学生活にどのような意味を持つかを再度振り返らせることが重要であると考えられる。そうしてこそ、本研修の目的が満足いくように達成されたと言えるであろう。

(Endnotes)

1）本学のみの海外研修としては、オーストラリア・ニュージーランド海外英語研修がある。それについては、小山（2009a, b）を参照。
2）括弧内の数字は、同様な回答の件数を表す。
3）キリングフィールド、トゥールスレン刑務所博物館訪問直後は、ここに現れている数字以上の平和に関する感想が聞かれた。
4）過去の本カンボジア研修では、HCC グッデイセンターも訪問していたようである（谷口 2010）。

参考文献

小山直子「海外英語研修実施報告ならびに改善策の考察 」『国際研究論叢』22（２）、83-92、2009a 年。
小山直子「海外英語研修実施報告ならびに改善策の考察（その２）」『国際研究論叢』23（１）、101-113、2009b 年。
谷口勝浩 「夏期カンボジアボランティアワークキャンプ研修出張報告書」2010年、2009年、2008年、2006年、2005年。